

函館建物散歩

明治・大正・昭和の、懐かしい街並みをめぐり歩く。

ROMANTIC

建物の記憶を、 探り歩く旅。

函館山のふもとに広がる西部地区には、

明治から大正、昭和の初めにかけて

建てられた建物が数多く残っています。

それらは、ただ保存展示されているのではなく、

時代にあった改修を重ねて

現役で使い続けられているのが特徴です。

函館の景観をより深く楽しむのなら、

長い時を経てきた造形を鑑賞しながら

建物の記憶をたどる旅をしませんか。



日和坂の由来が書かれた、情緒豊かな看板

古い街並みを訪ね歩くことは、
建物の持つ物語に耳を傾けること。
積み重ねてきた生活に思いを馳せること。
休むことなく走ってきた私たちが
先を急ぐばかりに手放してきてしまった
大切な何かが見つかるかもしれません。

函館建物散歩

CONTENTS

建物の記憶を、探り歩く旅。……………1

エリア A

- 赤レンガ倉庫群……………3
- 函館市末広町分庁舎……………5
- 旧茶屋亭……………6

エリア B

- 函館ハリストス正教会……………7
- カトリック元町教会……………9
- 東本願寺函館別院……………11

エリア C

- 旧函館区公会堂……………13
- 旧北海道庁函館支庁庁舎……………15
- 旧開拓使函館支庁書籍庫……………16
- 旧イギリス領事館……………17
- 旧相馬邸……………18

エリア D

- 旧函館西警察署庁舎……………19
- 太刀川家住宅店舗……………20

エリア E

- 大正湯……………21
- 旧ロシア領事館……………22
- 高龍寺……………23
- 函館スタイルの特徴……………25
- 函館建物散歩マップ……………27
- ありし日の建物群……………29



1859(安政6)年、長崎・横浜とともに日本最初の貿易港として開港され、欧米文化が上陸した函館。明治40年ごろに建築された赤レンガ倉庫は、いまもかつての面影をとどめ、時代の波を見つめています。



明治40年代に建てられた赤レンガの倉庫が、ショッピングモールとして再生されたのは青函トンネルが開通した1988(昭和63)年。かつて海産物の集積地だった船着き場は、多くの観光客で賑わう観光スポットに変わりましたが、港町として繁栄した時代の面影が色濃く残っています。





赤レンガ倉庫群



2 金森倉庫1号・2号 (金森洋物館)

この周辺は享和年間に埋め立てられ、造船所や外国人居留地が設けられていました。倉庫街として発展したのは明治20年ごろからで、切妻の屋根やアーチ型の防火扉にかつての名残が感じられます。
 建築年・構造／明治42年・れんが造平屋建 所在地／末広町13-8,16 **伝建**



1 BAYはこだて

旧日本郵船の倉庫で、今も残る堀割が港町函館の歴史を彷彿とさせます。映画やテレビの撮影にもよく使われる風景です。
 建築年・構造／明治15年・れんが造平屋建 所在地／豊川町111-5 **伝建**



3 金森倉庫3号 (金森ホール)・4号 (函館浪漫館)・5号 (函館ビヤホール)

北洋漁業の衰退で倉庫業がかつての勢いを失うなか、巨大なれんが倉庫もコンサートホールやピアホールとしてリニューアルし、ベイエリア再開発の成功例として先駆的な役割を果たしました。
 建築年・構造／明治42年・れんが造平屋建 所在地／末広町14-16 **伝建**





函館市末広町 分庁舎

昭和の初期、函館の日本橋と
うたわれるほどにぎやかだった末広町。
1923（大正12）年に誕生した
モダンな百貨店が現在は
「函館市地域交流まちづくりセンター」
として利用されています。
ゴージャスな大理石の階段は往時のまま。
東北以北最古の手動式エレベーターも
現役です。



景観

建築年／大正12年
構造／RC造3階建
所在地／末広町4-19

4 函館市末広町分庁舎
（函館市地域交流
まちづくりセンター）

丸井今井百貨店として
建設され、昭和45年か
らは市の分庁舎として
利用されていた建物で
す。角部をなだらかな
アーチ状にして主玄関
を配置してあり、角地
の立地条件を活かした
設計になっています。



旧茶屋亭

明治末期に建てられた木造2階建の建物は、もともと海産物を扱う商家でした。1階はひさしのある純粋な和風、2階は縦長の上げ下げ窓を配した洋風で、函館発祥の典型的な和洋折衷様式です。

5 旧茶屋亭

和風の1階には出窓、洋風の2階には縦長窓。1階と2階の間には胴蛇腹の装飾を施すなど、建築技術の高さを感じられます。防火のために造られた瓦屋根のれんが塀にも注目。

建築年/明治期

構造/木造2階建

所在地/末広町14-28

伝建



7 ザ・グラススタジオ函館

明治末期に建てられた海産商の倉庫で、瓦葺の切妻屋根が特徴。アーチ状の開口部が、港町の風情をしのばせる洋風建物です。

建築年・構造/明治43年・れんが造平屋建
所在地/末広町14-2 伝建



6 高田屋嘉兵衛資料館1号

2号が石造なのに対し、1号は鉄筋コンクリート造。当時最新の耐火素材を使いながら、伝統的な意匠を守っています。

建築年・構造/大正12年・RC造平屋建
所在地/末広町113-22 伝建



6 高田屋嘉兵衛資料館2号

海産物倉庫を再利用した資料館。北前船の歴史などを展示していますが、石造に漆喰塗の蔵そのものも見逃せません。

建築年・構造/明治36年・石造平屋建
所在地/末広町113-22 伝建



10 深谷米穀店(ラ・コンチャ)

大正時代から米穀店兼住居として使われてきた和洋折衷建物です。いまはスペイン料理のレストランとして使われています。

建築年・構造/大正6年・木造2階建
所在地/末広町14-6 伝建



9 市水商会

1階は格子窓、2階は縦長窓と、典型的な和洋折衷建物です。胴蛇腹や軒蛇腹など外壁の装飾も高水準です。

建築年・構造/明治42年・木造2階建
所在地/末広町14-5 伝建



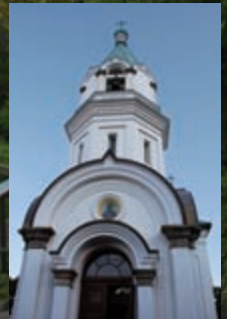
8 和雑貨いろは

和風の格子戸がはめ込まれた1階、縦長窓を等間隔に配置した2階。異なる意匠を違和感なくまとめた建築技術に目を見張ります。

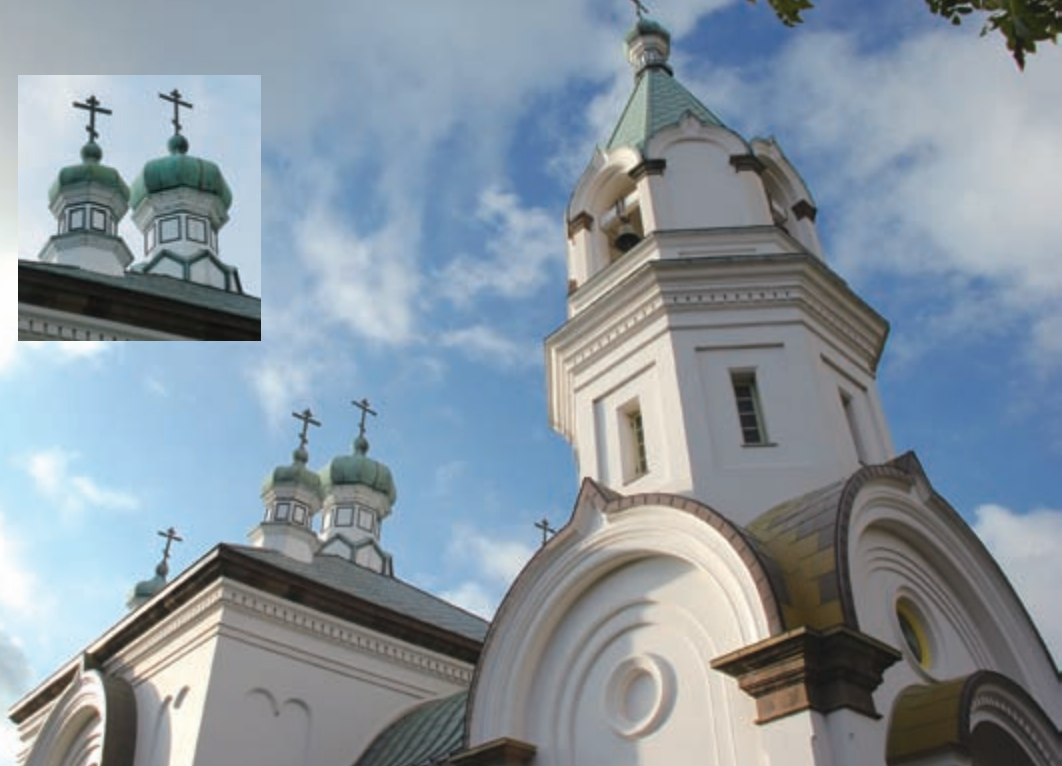
建築年・構造/明治41年・木造2階建
所在地/末広町14-2 伝建



江戸末期にロシア人ニコライによって
伝えられたロシア正教会の教会です。
漆喰の白壁と緑色の銅板屋根に、玉ねぎ型の6つのクーポルは、
函館の顔ともいえるほど有名。
ロシアビサンチン様式をベースにした1916（大正5）年の建築です。



函館ハリストス正教会



函館ハリストス正教会門柱

築年／大正5年
構造／石造
所在地／元町3-13
伝建



11 函館ハリストス正教会
復活聖堂

日本初のロシア正教会の教会です。れんが壁に漆喰を塗った白壁と、銅板屋根の緑色のコントラストが印象的で、元町のランドマーク的存在。屋根には玉ねぎ型のクーポルが6つあり、それぞれに十字架を載っているのも独特。ロシアビザンチン様式の影響を受けています。国の重要文化財。

築年／大正5年
構造／れんが造平屋建
所在地／元町3-13
伝建



12 遺愛幼稚園

下部が急勾配で上部が緩やかなマンサード屋根のおしゃれな洋館。縦長窓を配し、1階腰部分にはハーフティンバーを取り入れたスティックスタイルのデザインや、入口上部の楕円形ベデメント（破風）が特徴です。

築年・構造／大正2年・木造2階建
所在地／元町4-1 伝建



カトリック元町教会の建築は
1924(大正13)年。
ヨーロッパ、中世のゴシック建築の
特徴を持ち、横浜の山手教会、
長崎の大浦天主堂と同様に
古い歴史があります。
六角形の荘厳な尖塔と、
屋根に取り付けた風見鶏は、
石畳の美しい大三坂のシンボルです。



13 カトリック

元町教会聖堂

1921(大正10)年の大火で類焼したれんが造の教会堂をコンクリートで補強しています。正面右側の大鐘楼は、このときに増築したものの、堂の内部はクラシックなゴシック建築の特徴を有しています。

建築年/大正13年

構造/れんが造平屋建

所在地/元町15-30

伝建

カトリック元町教会



16 蕎麦彩彩 久留葉

大三坂沿いにひっそりと建つ和風平屋の古民家です。あまり手を加えられることなく、会席茶屋を経て、現在は蕎麦店として利用されています。

建築年・構造／大正14年・木造平屋建
所在地／元町30-7 **伝建**



15 幌村家所有建物

1階部分が格子窓を持つ和風様式、2階部分が縦長窓や軒裏の化粧飾りに塗装を施した洋風様式。函館ならではの典型的な和洋折衷様式です。

建築年・構造／明治41年・木造2階建
所在地／元町17-9 **伝建**



14 鷺見家所有建物・附属石塀

ピンクの外観がひととき目立つ洋館。やわらかにうねる破風や、曲面に配した開き窓などがロマンチックな雰囲気。屋根の上には暖炉用煙突が見えます。

建築年・構造／大正10年・木造2階建
所在地／元町15-28 **伝建**



19 旧カール・レイモン居宅

1階・2階とも開口部は縦長窓、モルタル塗の外壁で、オーソドックスな洋風の建物。「胃袋の宣教師」と呼ばれたカール・レイモンが暮らしていました。

建築年・構造／昭和7年・木造2階建
所在地／元町30-3 **伝建**



18 川越電化センター

正面2階に半円3連アーチのベランダがあり、アーチを支える4本の木柱には溝状の装飾がみられます。窓台下にも凝ったレリーフが施されています。

建築年・構造／明治40年・木造2階建
所在地／末広町18-30 **伝建**



17 ホテルニュー函館

旧安田銀行函館支店として建設された建物。中央に円形の付け柱4本建、その間に縦長の窓を設けたデザイン。銀行建築が再利用された早い事例です。

建築年・構造／昭和7年・RC造2階建
所在地／末広町23-9 **景観**



大三坂

教会や洋館が建並ぶ石畳の大三坂は日本の道百選にも選ばれ、元町の中でも特にエキゾチックな坂道です。坂を登り切った先に続く細い坂がチャチャ登り。教会の背後に広がる海を望むことができます。



東本願寺函館別院



浜風が強く大火の多かった函館で人々に熱望されたのが「燃えないお寺」。

二十間坂の上にある東本願寺函館別院の本堂は1915（大正4）年に建立された

日本で初めての鉄筋コンクリート造の寺院です。

当初、泥で本堂を造ることに異議を唱える人もいましたが、「上棟式」ではコンクリートの高床に

芸者衆を集めて手踊りさせ、その頑丈さを強調して市民から寄付を集めたというエピソードが残っています。

20 東本願寺函館別院本堂
附属表門・南門・コンクリート堀

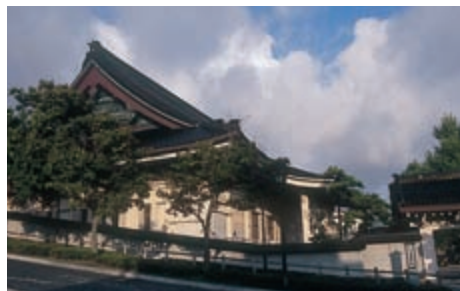
日本で初めての鉄筋コンクリート造の寺院として1915（大正4）年に完成。当初は奇妙な建物として見られていましたが、1921（大正10）年の大火の際、一面の焼け野原にほぼ無傷で残っていたことから、耐火建築が普及するきっかけとなりました。国の重要文化財。

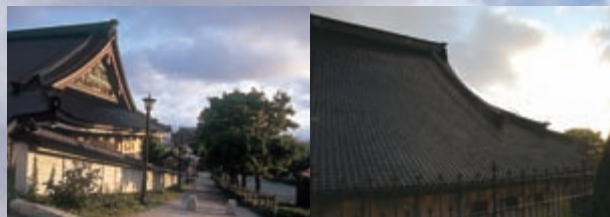
建築年／大正4年

構造／RC造平屋建

所在地／元町16・15

仏建





東本願寺函館別院本堂



東本願寺函館別院附属表門



東本願寺函館別院附属南門



21 函館市水道局元町配水場
管理事務所

函館の上水道は横浜に次いで2番目にできたもの。元町配水場は亀田川の水を西部地区に供給するために造られ、この建物もそのときに建てられました。建物入口上には「水」という字をあしらっており、水道局の歴史を伝えるシンボリック的存在です。
 建築年・構造／明治22年・れんが造平屋建
 所在地／元町1-4 **●** 景観



東本願寺函館別院附属コンクリート塀



基坂を登り切った高台にそびえる
旧函館区公会堂。

大火で焼失した町会所に代わる施設として、
1910（明治43）年に完成しました。

5万8千円の総工費のうち、

5万円もの大金を寄付したのは

時の豪商、相馬哲平。

かつての富豪は、財を自らの懐に貯めず、
公益事業に惜しみなく提供しました。

22 旧函館区公会堂

港を見下ろすバルコニー
を持つ木造2階建の洋風
建物です。左右対称の外
観で、瓦屋根には屋根窓
が設置されているほか、
正面玄関の円柱に美しい
彫刻を施した柱頭飾り
があるなど装飾性が豊か。
日本を代表する明治洋風
建物のひとつであり、国
の重要文化財。

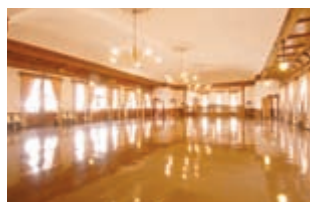
建築年／明治43年
構造／木造2階建
所在地／元町1-13

伝建





旧函館区公会堂



2階大広間



2階大広間窓際とカーテン



御座所

2階の大広間は畳260枚分、柱が一本もない釣り天井で、当時の建築技術の高さを示しています。



◀正面両側のペディメント(破風)には唐草模様の装飾。洋風建物に伝統的な和風の意匠を組み込んでいるのが斬新です。



▶
屋根窓(ドーマーウィンドウ)は北海道独特の洋風スタイル。旧道庁など多くの公共建築に用いられた意匠です。



1909(明治42)年に建てられた北海道庁函館支庁舎。ルネッサンス様式を基調とした設計のなかでも、コリント式の柱が支える玄関ポーチがひととき目を引きまします。近くには諸外国の領事館や税関、病院、銀行、商社が建ち並び、政治の中心地としてにぎわいました。



23 旧北海道庁函館支庁舎
 (元町観光案内所・
 函館市写真歴史館)
 ルネッサンス様式を基調とするクラシカルな木造庁舎です。特徴は中央部にふくらみを持つ4本の柱で支えている柱廊玄関。2階に張り出した三角屋根には、コリント式の柱頭飾りも見られます。現在は函館市写真歴史館、元町観光案内所として一般公開されています。
 建築年/明治42年
 構造/木造2階建
 所在地/元町12-18
 伝建 道有形

旧北海道庁 函館支庁舎





旧开拓使 函館支庁書籍庫

地域の半分を焼失した1907(明治40)年の大火でも類焼をまぬがれた赤れんがの書籍庫。れんがの一部には明治七〜九年と記された「函館製造」の刻印があります。上磯(現北斗市)の茂辺地にあった开拓使直営のれんが工場で作られたものです。



構造／れんが造2階建
所在地／元町12-1
伝建 道有形

24 旧开拓使 函館支庁書籍庫

窓には防火の鉄扉と鉄柵が設けられており、1907(明治40)年の大火でも類焼をまぬがれました。开拓使直営の茂辺地煉瓦石製造所のれんがが使用されており、北海道のれんが造の歴史を伝える貴重な建築です。
建築年／明治13年
構造／れんが造2階建
所在地／元町12-1



27 元町日和館

1階2階ともに上げ下げ縦長窓を配し、南京上見板張り、胴蛇腹、軒を支える持ち送りなど、特徴のある洋館で土産物店として利用されています。
建築年・構造／大正10年・木造2階建
所在地／元町10-13 伝建



26 茶房菊泉

和風平屋建の妻入り建物は、周辺では唯一のもの。酒問屋の別宅として大正期に建てられ、現在は和風喫茶として利用されています。
建築年・構造／大正10年・木造平屋建
所在地／元町14-5 伝建



25 花かんろ

古くは駄菓子屋だった平屋の和風建物を、1995(平成7)年に原形改修し、喫茶店として函館らしいスタイルでリノベーションしています。
建築年・構造／大正10年・木造2階建
所在地／元町14-6 伝建



30 プレイリーハウス

アメリカの建築家F.L.ライトの弟子、田上義也の代表作のひとつ。幾何学的モチーフの門扉など昭和初期のモダン住宅の雰囲気を与えます。国の登録有形文化財。
建築年・構造／昭和3年・木造2階建
所在地／元町32-10 景観 国有形



29 旧小林写真館

現存する写真館としては道内最古といわれる洋風建物。2009(平成21)年から再び写真館として利用されています。
建築年・構造／明治40年・木造2階建
所在地／大町2-9 景観



28 川村家住宅

大正期の和洋折衷建物です。1階は漆喰塗り的小壁がついた和風のしつらえて、2階は縦長の上げ下げ窓と、持ち送りのある洋風の建物です。
建築年・構造／大正11年・木造2階建
所在地／元町10-10 伝建



旧イギリス領事館

幕末から明治期にかけて3度の火災に見舞われたイギリス領事館。現在残る白亜の建物は1913(大正2)年に建設されたものです。大英帝国のコロニアル・スタイルが踏襲された美しい公館には、1934(昭和9)年までユニオンジャックが掲げられていました。



伝建 市有形

所在地／元町33・14

構造／れんが造2階建

建築年／大正2年

スタイルが踏襲されています。

現在現在の元町の地に新築され

ました。シンブルな外観には、大英帝国が植民地統治の

政府に用いたコロニアル・ス

タイルが踏襲されています。

建築年／大正2年

構造／れんが造2階建

所在地／元町33・14

伝建 市有形

31 旧イギリス領事館



35 市立函館博物館郷土資料館
れんがの上に漆喰を塗った洋風不燃質の店舗です。1907(明治40)年の大火では、周囲の店舗が焼失するなか、類焼をまぬがれました。建築年・構造／明治13年・れんが造2階建
所在地／末広町19-15 景観 道有形



34 ジャックス社屋(函館市文学館)
第一銀行函館支店として建設された重厚な建物。左右対称のデザインで、内部には大きな吹き抜け、2階部分に回廊があります。建築年・構造／大正10年・れんが造2階建
所在地／末広町22-5 景観



33 中華会館
三国志の武将である関羽を祀った関帝廟形式の集会所。横浜や神戸の中華会館が戦災で失われたため、日本唯一の貴重な建物です。建築年・構造／明治43年・れんが造平屋建
所在地／大町1-12 景観 国有形



旧相馬邸



函館屈指の豪商、相馬哲平氏の私邸だったお屋敷は、和室10間に洋室1間の豪勢なもの。ケヤキの1枚板でできた戸や、細部に凝った欄間などに、一世紀を超える長い歴史が宿っています。現在は内部も一般に公開されているほか、別棟のゲストハウスで宿泊も可能です。

32 旧相馬邸

北海道屈指の豪商、相馬哲平が函館港を一望できる高台に建設した私邸。本格的な和風住宅ですが、正面玄関の横は洋間の応接室も設けられています。現在は一般公開され、別棟は民宿としても利用されています。

建築年／明治41年
構造／木造一部2階建
所在地／元町33-2

伝建

隣接している土蔵の屋根は瓦葺の切妻造り。漆喰保護のため鉄板で壁の全面を保護しています。内部は総ヒバ造りの豪華な設計です。



窓からは函館港を一望できます。



38 相馬株式会社

創建時の姿を保つルネッサンス風の商家建築です。ベディメントのある上げ下げ窓や、丸型や角型の屋根窓が特徴。大正期の代表的な洋風建物のひとつです。

建築年／構造／大正2年・木造2階建
所在地／大町9-1 伝建



37 生田ステンドグラス函館

1階は和風、2階は洋風の和洋折衷様式。坂道の急斜面に建ち、奥は半地下構造になっています。ガラス小物づくりを体験できる工房として利用されています。

建築年／構造／明治42年・木造2階建
所在地／大町1-33 伝建



36 喫茶JOE

1階には3連アーチ、2階にもアーチ型の窓を備えたしゃれた建物です。外壁はれんがですが、表面を塗り石造り風に見せています。

建築年／構造／明治18年・れんが造2階建

所在地／大町9-14 景観



函館市臨海研究所がたたくむ場所は、江戸末期、ペリーが黒船で上陸した場所。正面玄関のある建物の角を、なだらかなアールで仕上げたクラシックな建物は、1984(昭和59)年まで、現役の警察署として使われていました。



39 旧函館西警察署庁舎
(函館市臨海研究所)

大正末期の建築で、現存する警察庁舎としては北海道最古のもの。建物角部を曲面で仕上げ、そこに正面玄関を配し、角地に建つ建物であることを意識した設計になっています。玄関両脇の4本の柱や縦長の窓などが印象的で、重厚ななかにも柔らかさを感じさせる造形です。

建造/RCC造2階建
建築年/大正15年

所在地/大町13-1

景観



旧函館西警察署庁舎

太刀川家住宅店舗



1901(明治34)年建築の土蔵造りの商家が、100年を超える時を経て、風情あるカフェに生まれ変わりました。れんが造の壁を漆喰で塗り込めた防火建築で、1階間口上部には3連アーチを施すなど、洋風建物の意匠もプラスされています。

40 太刀川家住宅店舗 (TACHIKAWA CAFE)

れんが造の壁の上に漆喰を塗った不燃質の和風建物を、左右両側に防火用の袖壁を備えるなど、度重なる大火に備えた造りになっています。1階部分には2本の鉄柱の上に3連アーチを設けるなど、洋風建物のデザインも採用。明治末期に建築された商家の典型として国の重要文化財に指定されています。

建築年/明治34年
構造/れんが造2階建
所在地/弁天町15-15

● 景観



40 太刀川家洋館

主屋のわきに応接用として増築された洋風2階建。破風や軒下に植物模様を施され、入口部分をコリント式円柱が支えています。
建築年・構造/大正4年・木造2階建
所在地/弁天町15-15 ● 景観



42 今井家所有住宅

米穀店兼住居として建築されたもの。正面の店舗部分は瓦屋根の和風2階建、住居部分は2階に縦長窓を採用するなど洋風の意匠も組み入れています。
建築年・構造/明治40年・木造2階建
所在地/弁天町15-10 ● 景観



41 大幸機動興業所社屋(ヤマト佐藤商会)

3階正面にバルコニーを持つしゃれた建物。かつてはロシアの鮭鱒を扱う会社でしたが、現在はカフェや雑貨店が営業しています。
建築年・構造/大正5年・木造3階建
所在地/弁天町15-12 ● 景観



45 和島家住宅(ペンション古和)

1階は引き違い戸や格子の出窓で和風のたたずまい。2階は縦長の上げ下げ窓に、持ち送りのついた屋根など、洋風の意匠も入っています。
建築年・構造/大正4年・木造2階建
所在地/弁天町16-9 ● 景観



44 小森家住宅店舗

1階が和風、2階が洋風の典型的な和洋折衷様式。2階の両開き窓は窓台のない額縁形式で、数少ない明治30年代の貴重な遺構です。
建築年・構造/明治34年・木造2階建
所在地/弁天町23-14 ● 景観



43 坂下商店所有建物(民宿ミートハウス)

1階が和風、2階が洋風の和洋折衷様式で、西側にれんが造の防火壁を備えているのが特徴です。現在は民宿として利用されています。
建築年・構造/明治40年・木造2階建
所在地/弁天町22-14 ● 景観



その名の通り、大正時代創業の古い銭湯。
左右対称の木造洋館は、
1928(昭和3)年に建て替えたもの。
当時はさぞハイカラなお風呂だったことでしょう。
むかし懐かしい番台には、
三代目の女将が座っています。



46 大正湯

中央をわずかに突出させ、三角ペディメントを載せた左右対称の木造2階建。縦長窓や、1階と2階を区切る胴蛇腹の装飾などが見られ、銭湯のような庶民的な建物まで洋風建築が波及していったことを示す好例です。

建築年／昭和3年
構造／木造2階建
所在地／弥生町14-9

景観



大正湯

旧ロシア領事館



眼下に函館港を見下ろし、幸坂の高台にそびえる旧ロシア領事館は、1908(明治41)年に建てられた洋館。赤れんがの外壁と、漆喰の白い縁取りの鮮やかなコントラストが印象的です。ここで発給された査証(ビザ)を持ち、多くの日本人がロシア沿岸の漁場へと向かいました。



47 旧ロシア領事館

設計者はドイツ人建築家のR.ゼール。幸坂の急勾配に建つ建物は、赤れんがの外壁に、白い漆喰が施され、赤と白のコントラストが印象的。正面入口の上には寺院風の唐破風がつけられ、柱の上部には軒を支える組物があるなど、和風意匠との組み合わせが独特の雰囲気を書かせています。

建築年/明治41年

構造/れんが造2階建

所在地/船見町17-3

● 景観



50 山上大神宮 本殿

幸坂を上り詰めたところにある神社。景観形成指定建築物等の中では唯一の神社建築です。

建築年・構造/昭和5年・木造平屋建

所在地/船見町15-1 ● 景観



49 称名寺 本堂

東本願寺函館別院に次ぐ、市内2番目の鉄筋コンクリート造りの寺院。通り沿いに3つの寺院が並び、寺町を形成しています。

建築年・構造/昭和4年・RC造平屋建

所在地/船見町18-14 ● 景観



48 実行寺 本堂

切妻の四方にひさしを葺きおろした入母屋瓦葺の土蔵造り。正面に大きく張り出した部分は弓形の唐破風になっています。

建築年・構造/大正7年・木土蔵造平屋建

所在地/船見町18-18 ● 景観



52 東本願寺函館別院船見支院 本堂

元町の東本願寺函館別院の墓地を管理するために建てられたもの。境内には木造の水盤舎、石造りの預骨堂があります。

建築年・構造/大正15年・木造平屋建

所在地/船見町18-20 ● 景観



51 函館検疫所台町措置場(ティショップタ日)

1885(明治18)年、当時の主要6港(函館・横浜・神戸・下関・長崎・新潟)に設置された常設消毒所のひとつ。現在は喫茶店として再利用されていますが、全国的にみても数少ない初期港湾施設の遺構です。

建築年・構造/明治18年・木造平屋建 所在地/船見町25-18 ● 景観



高龍寺

江戸初期に創始されたという高龍寺。函館に現存する寺院では、最も古いお寺です。総ケヤキ造の本堂は、1900(明治33)年に越後の名工を招いて造った名建築。1911(明治44)年建立の山門に施された芸術的な彫刻装飾も見どころです。



開山堂

れんが造り漆喰壁の建物で、屋根の小屋まわりの白壁が目を引きます。境内の中で一番古く明治33年の落成です。

建築年・構造/明治33年・木造平屋建



鐘楼

山門から境内に入り、すぐ右手にある鐘突き堂。4本の柱に支えられた銅板葺の入母屋造りて、大正11年の建築です。

建築年・構造/大正11年・木造

山門

総ケヤキ造りで、前後に4本の柱を立てた八脚門。本堂と同じ入母屋屋根をかけています。象鼻や獅子鼻の彫刻が施された欄間など、装飾性の高さが特徴です。

建築年・構造/明治44年・木造

53 高龍寺 本堂

総ケヤキ造の寺院です。越後から呼び寄せた職人の手で1900（明治33）年に竣工しました。屋根の上部は2方向、下部は左右方向に勾配を持つ、入母屋造。その下に裳階（もこし）と呼ばれるひさし状の飾り屋根がついています。境内には明治後半から昭和初期の建築物が数多く残されており、本堂をはじめ9件が景観形成指定建築物等に指定されています。

建築年／明治33年
構造／木造平屋建
所在地／船見町211
景観



金比羅堂

境内に入って左手にある建物で、入母屋瓦葺屋根が四方に向いている特殊な形状をしています。

建築年・構造／大正4年・木造平屋建



袖垣・防火塀

山門を挟んで左右には土蔵造に瓦屋根の袖垣がのび、左側の民地との境にはより高いれんが造の防火壁があります。ともに明治43年の竣工ですが、右手墓地側の低いれんが塀はそれより古いものと推測されています。建築年・構造／明治43年・木造・れんが造



宝蔵

鐘樓の右手に建つ、れんが造漆喰壁の蔵。入口部分のれんがと、漆喰の蔵造がひとつになっています。建築年・構造／大正5年・れんが造平屋建



山門や本堂には、龍や獅子、鳳凰などの精巧な彫刻がいたるところに施されています。

水盤舎

参拝者が手を清めるための施設。境内の参道左手にあり、銅板葺の入母屋屋根を4本の柱が支えています。建築年・構造／大正4年・木造



位牌堂

金比羅堂と回廊でつながる建物。本堂の入母屋屋根を小型にした形式で、全体の形もよく似ています。建築年・構造／昭和8年・木造平屋建



函館スタイルの特徴

日本最初の国際貿易港として開港し、異国文化がいち早く上陸した函館の街。さまざまな国の建築様式が混在しているのが特徴です。

たとえば、高龍寺のれんが塀は、

東側がイギリス積み、西側がフランス積みと異なる様式で積み上げられた独特なもの。函館でしか見られないユニークな意匠もたくさんあります。

和洋折衷様式



1階が和風、2階は洋風という和洋折衷スタイルの建物は函館から始まりました。数が増えていくのは1907（明治40）年の大火の復興期から。進取の気風に富んだ商人たちが、商いをしやすいよう1階は開口部を広くとった伝統的な和風の店構えにし、商売が繁盛している証として2階部分に流行の洋風デザインを取り入れたのではないかと考えられています。和と洋を違和感なく調和させるため、ひさして上下を仕切り、外壁の板張りにも変化をつけました。とはいえ、当時はめずらしかった上げ下げ窓や両開き窓でモダンに設計された2階部分も、内部のしつらえは純和風。畳を敷いた和室になっていたのも特徴です。末広町に建つ「和雑貨いろは」は、もと海産問屋の店舗で、典型的な和洋折衷建物のひとつ。2階部分が板を水平に張って外壁を仕上げる下見板張りで、1階が和風の造になっています。建物の奥にはれんが造の防火壁が取り付けられているのも函館らしさを物語っています。

和風様式



さまざまなデザインの建物が並ぶ函館の街並みでは、純和風の建物はむしろめずらしい存在。洋館が建ち並ぶ坂道に、目立つことなくひっそりとたたずんでいます。重厚な瓦屋根はもちろん、昔ながらの土蔵を持つ建物も昔の姿のまま残っています。

洋風様式



正面2階に半円型3連アーチのバルコニーを持つ洋風建物です。1907（明治40）年に建築され、大正年間にはロシア人が営むリユース商会が所有していました。現在の建物は復元されたものですが、函館が国際貿易港として栄えていた時代の面影をとどめています。

旧開拓使書籍庫のれんが



書籍庫に使用されているれんがの一部には、明治七～九年にかけての「函館製造」の刻印があり、1872（明治5）年に開拓使が創設した官営工場、茂辺地煉瓦石製造所のれんがが使用されています。書籍庫の建築は1880（明治13）年ごろと推測されています。



れんが造漆喰仕上げ



1879（明治12）年の大火の後、開拓使が耐火建築を奨励したのをきっかけに、函館の有力商人たちはれんが壁に漆喰を重ねて洋風不燃質の店舗を造るようになりました。そのため1907（明治40）年の大火では類焼をまぬがれ、明治期のまちの雰囲気や平成のいまに伝えていきます。

鉄筋コンクリート構造



鉄筋コンクリート構造（RC造）の建物が増えたのは、大正期後半から昭和初期にかけて。1921（大正10）年の大火の後にはコンクリート造やブロック造の商店が並び近代的な街並みが生まれ、昭和初期には小学校など公共建築の不燃化も進められました。

高龍寺のれんが塀



高龍寺のれんが塀は、西側がフランス積み、東側がイギリス積み、と異なる技術で積み上げられています。フランス積みはひとつの列に長手と小口を交互に並べる方法、イギリス積みは長手と小口を一列ずつ重ねる方法。焼け焦げの痕跡がある西側は、1907（明治40）年以前のものと推測されています。

ハリストス正教会の屋根



れんが壁に漆喰仕上げを施した白壁と銅板屋根の緑色のコントラストが印象的なハリストス正教会。ロシアビザンチン様式を基本とした設計です。屋根の上に玉ねぎ型のクーポルが6つと十字架が配置されたそのスタイルは、日本で唯一のもです。

相馬株式会社 ペディメント（破風）と ドーマーウィンドウ



ペディメント（破風）とは、玄関入口の上や窓の上部に装飾的に用いられる三角形の切妻屋根のこと。ドーマーウィンドウとは丸型や角型の屋根窓のこと。1914（大正3）年に建てられた相馬株式会社の木造社屋は、ルネッサンス風の洋風建築で、大正期の建築技術の高さを物語ります。

伝建 伝統的建造物

弥生町、大町、元町、末広町、豊川町の各一部を「伝統的建造物群保存地区」と定め、地区内で重要な価値があると認められる建造物について「伝統的建造物」に指定し、助成などを行いながら保存を図っています。平成元年には、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

景観 景観形成指定建築物等

歴史的な建造物が多数存在し、函館らしい歴史と文化を形づくっている景観を有している地域を「都市景観形成地域」に指定。地域内で重要な価値があると認められる建築物等について「景観形成指定建築物等」に指定し、助成などを行いながら保全を図っています。

国有形 国の登録有形文化財

道有形 北海道指定有形文化財

市有形 函館市指定有形文化財

※マップ上の  は伝統的建造物

 は景観形成指定建築物等

函館漁港

エリアE

入舟町

外国人墓地

西中学校

弥生町

船見町

函館どつく前

函館市電

1 BAYはこだて …………… 4P	19 旧カール・レイモン居宅 …………… 10P	37 生田ステンドグラス函館 …………… 18P
2 金森倉庫1号・2号 …………… 4P	20 東本願寺函館別院 …………… 11P	38 相馬株式会社 …………… 18P
3 金森倉庫3号・4号・5号 …………… 4P	21 函館市水道局元町配水場管理事務所 …… 12P	39 旧函館西警察署庁舎 …………… 19P
4 函館市末広町分庁舎 …………… 5P	22 旧函館区公会堂 …………… 13P	40 太刀川家住宅店舗・洋館 …………… 20P
5 旧茶屋亭 …………… 6P	23 旧北海道庁函館支庁庁舎 …………… 15P	41 大幸機動興業所社屋 …………… 20P
6 高田屋嘉兵衛資料館1号・2号 …… 6P	24 旧開拓使函館支庁書籍庫 …………… 16P	42 今井家所有住宅 …………… 20P
7 ザ・グラススタジオイン函館 …… 6P	25 花かんろ …………… 16P	43 坂下商店所有建物 …………… 20P
8 和雑貨いろは …………… 6P	26 茶房菊泉 …………… 16P	44 小森家住宅店舗 …………… 20P
9 市水商会 …………… 6P	27 元町日和館 …………… 16P	45 和島家住宅 …………… 20P
10 深谷米穀店 …………… 6P	28 川村家住宅 …………… 16P	46 大正湯 …………… 21P
11 函館ハリストス正教会 …………… 7P	29 旧小林写真館 …………… 16P	47 旧ロシア領事館 …………… 22P
12 遺愛幼稚園 …………… 8P	30 プレイリーハウス …………… 16P	48 実行寺 本堂 …………… 22P
13 カトリック元町教会聖堂 …………… 9P	31 旧イギリス領事館 …………… 17P	49 称名寺 本堂 …………… 22P
14 鷺見家所有建物・附属石塀 …… 10P	32 旧相馬邸 …………… 18P	50 山上大神宮 本殿 …………… 22P
15 幌村家所有建物 …………… 10P	33 中華会館 …………… 17P	51 函館検疫所台町措置場 …………… 22P
16 蕎麦彩彩 久留葉 …………… 10P	34 ジャックス社屋 …………… 17P	52 東本願寺函館別院船見支院 本堂 …… 22P
17 ホテルニュー函館 …………… 10P	35 市立函館博物館郷土資料館 …… 17P	53 高龍寺 …………… 23P
18 川越電化センター …………… 10P	36 喫茶JOE …………… 18P	

ありし日の 建物群



遺愛女学校 明治20年

(函館市中央図書館所蔵)

東京以北で最初の女学校として1882(明治15)年に創立された遺愛女学校。当初、校舎は元町に建設されましたが1907(明治40)年の大火で焼失。翌年に現在地(杉並町)に移転しました。

十字街 昭和初期

モダンなコンクリート建築の商店が建ち並ぶ昭和初期の十字街。商店入口には「歳末大売り出し」の看板が見えます。北海道で最初にアスファルト舗装をしたのも函館でした。



(函館市中央図書館所蔵)

函館県庁 明治18年頃

1882(明治15)年に開拓使が廃止されると、函館・札幌・根室の3県制が発足。基壇の上に函館県庁が設けられました(写真中央)。しかし、わずか4年後には北海道庁が設置され、3県制は終わりを迎えます。



函館区役所 明治時代

1902(明治35)年に豊川町に新築された区役所は、ゴシック様式の屋根を持つ本格的な洋館。時の豪商・相馬哲平が敷地と建築費の一部を寄付して竣工。1934(昭和9)年の大火で惜しくも焼失しました。

(函館市中央図書館所蔵)



(函館市中央図書館所蔵)

函館停車場 昭和9年頃

北海道鉄道の函館駅が開業したのは1902(明治35)年。写真は3代目の駅舎で、1938(昭和13)年に焼失しました。青函連絡船の発着駅でもあり、北海道の玄関口としてにぎわいました。

(函館市中央図書館所蔵)





(函館市中央図書館所蔵)

函館病院 明治時代

幕末に開設された箱館医学所が前身の函館病院。箱館戦争の際には敵味方なく治療したと伝えられています。写真の病院は1871(明治4)年愛宕町(現船見町)に建築されたもの。7年後に焼失し弥生町に移転しました。

函館税関

明治20年



幕末から貿易事務を執り行っていた運上所が、1873(明治6)年から「税関」と名を改めました。写真中央の庁舎は1872(明治5)年の建築。明治後期には輸出額が増大し、全国屈指の税関になりました。右隣の建物が旧日本銀行函館支店、左隣の建物が相馬株式会社です。

(函館市中央図書館所蔵)



(函館市中央図書館所蔵)

開拓使函館支庁 明治初期

1869(明治2)年に箱館戦争が終結すると、新政府は本格的な北海道開拓に向けて開拓使を設置。現在の元町公園内にあった旧奉行所跡に函館支庁を設けました。



(函館市中央図書館所蔵)

度重なる大火で焼失したものの、老朽化によって解体せざるを得なくなってきたもの。時代の波にあらがえず、惜しくも失われてしまった風景が、モノクロームの古い写真のなかにひっそりと息づいています。

函館裁判所

明治初期



箱館奉行に代わり箱館裁判所総督が新設されたのは1868(明治元)年。1875(明治8)年に元町の配水地そばに庁舎を新築し、1898(明治31)年に青柳町へ移転するまで利用していました。

(北海道大学所蔵)

弁天岬台場 明治20年代

1856(安政3)年に着工し、1864(元治元)年に完成した弁天岬台場。外国船襲来に備えて建設した要塞でしたが、実際に使用されたのは箱館戦争のとき。新選組が中心となった旧幕府軍脱走軍が立てこもりました。



函館 インフォメーション Hakodate Information

WELCOME TO HAKODATE
国際観光宣言都市
THE CITY COMMITTED TO INTERNATIONAL TOURISM

電話案内 Useful Telephone Numbers

函館市観光案内所 (JR函館駅舎内)

Tourist Information Center (in the JR Hakodate Station Building)
函館市若松町12-13 ☎0138-23-5440

函館市元町観光案内所

Motomachi Tourist Information Center
函館市元町12-18 ☎0138-27-3333

(社)函館国際観光コンベンション協会

Hakodate International Tourism and Convention Association
函館市元町33-14 ☎0138-27-3535

函館市観光コンベンション部ブランド推進課

Brand Promotion Section, Tourism Convention Department, City of Hakodate
函館市東雲町4-13 ☎0138-21-3323



観光シンボルマーク

インターネット 情報 Internet Information

函館観光情報サイト“はこぶら”

Hakodate city tourist information web site "hakobura"
<http://www.hakobura.jp/>

(社)函館国際観光コンベンション協会ホームページ

Hakodate International Tourism Convention website
<http://www.hakodate-kankou.com>

発行 2011年

函館市観光コンベンション部ブランド推進課

※本パンフレットの収録内容の無断転載、複写、引用等を禁じます。